



新着図書案内



2017年5月発行



『くまモンあのね』

熊本地震の直後からTwitterのハッシュタグ「#くまモンあのね」を使って寄せられた、被災地で見た、聞いたりした心とむような話。くまモンが熊本を旅して、メッセージを寄せてくれた人たちに会いに行きます。

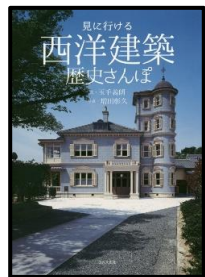
『くまモンあのね』製作委員会 // 著 幻冬舎



『ちいさい言語学者の冒険』

「これ食べたら死ぬ?」 どうして多くの子どもが同じような「間違い」をするのだろうか? 言語獲得の冒険に立ち向かう子ども=ちいさい言語学者たちが見せる数々の珍プレーを通して、ことばの秘密に迫る。

広瀬 友紀 // 著 岩波書店



『見に行ける西洋建築 歴史さんぽ』

官公庁から学校、オフィスビル、ホテル、邸宅まで、日本の近代化を見つめてきた45の建物たち。時代とその建物を舞台に繰り広げられた人々の物語に焦点を当てながら、西洋建築を読み解く。『AGORA』連載に加筆・修正。

玉手 義朗 // 文 増田 彰久 // 写真 世界文化社



『デザインってなんだろ?』

ブックデザインの世界を駆け抜けてきた著者が、デザインや美的感覚がそもそもどのように形成されていったかを、歴史の糸をときほぐしつつ解説するデザイン論。『+DESIGNING』等掲載を単行本化。

松田 行正 // 著 紀伊國屋書店



『「あ、それ欲しい!」と思わせる 広告コピーのことば辞典』

日本で発表された広告コピーや企業スローガンを基に編さんした、消費者を振り向かせる力の強い言葉をまとめた辞典。広告表現に用いられる語彙約1500語について、それらを使った広告コピー実例を挙げる。

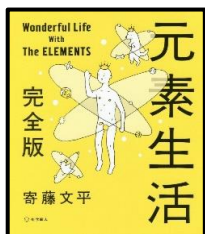
飯田 朝子 // 著 日経BP社



『辺境図書館』

知れば知るほど、読めば読むほど、好きになる。小説の女王・皆川博子が耽読した名作・稀覯本を語るブックガイド。『インポケット』連載に書き下ろし短編「水族図書館」を加えて書籍化。

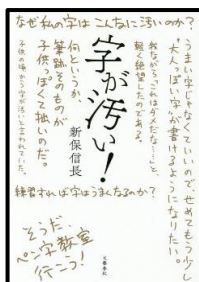
皆川 博子 // 著 講談社



『元素生活』

どこかユーモラスでウィットに富んだイラストで、イキイキ元素の世界を案内する。113番目の元素ニホニウムを加え、118の元素が出そろった完全版。切り取って使う「スーパー元素周期表」付き。

寄藤 文平 // 著 化学同人



『字が汚い!』

自分の字の汚さに愕然とした著者が、ペン字練習帳に挑戦し、作家の書き文字を検証。悪戦苦闘の日々が始まった。「汚い字」を徹底研究し、どうすれば字がうまくなるのかを考える。『季刊レポ』連載をもとに単行本化。

新保 信長 // 著 文藝春秋

*掲載しているものは新着本の一部です。新着本は随時ホームページで公開していますので、そちらもご覧下さい。
 *紹介文はTRCマークより引用。*書影は日外アソシエーツブックデータASPサービスを利用。または出版社より許諾を得ています。



『世界の果てのありえない場所』

ソ連の軍事遺産、キューバの監獄、死者の森、幽霊城…。想像を超えた場所、奇妙な景観、誰も行かない辺境の地などを取り上げ、この世にありえそうもないと考える理由を、地図と写真を添えて解説する。現地詳細地図付き。

トラビス エルボラフ // ほか著 日経ナショナルジオグラフィック社

『鳥類学者だからって、鳥が好きだと思ふなよ。』

出張先は火山にジャングル、無人島。血を吸うカラス、空飛ぶカタツムリ相手に奮闘し…。知られざる理系蛮族「鳥類学者」が抱腹絶倒、命がけの日々を綴る。『新潮45』連載を書籍化。

川上 和人 // 著 新潮社

『現金の呪い』

脱税・犯罪・地下経済を支える高額紙幣など、先進国の経済が「紙幣離れ」すべき理由を、さまざまな角度から説得力のあるデータとともに解き明かし、「レスキャッシュ(現金の少ない)社会」を提言する。

ケネス S.ロゴフ // 著 日経BP社

『なぜ南武線で失くしたスマホがジャカルタにあったのか』

南武線に忘れたスマホをジャカルタで発見者から受け取るようになったのはなぜ? 鉄道を通じて経済や社会の動きを知る。『東洋経済ONLINE』の鉄道ニュースサイト「鉄道最前線」2016年掲載記事のベストセレクション。

東洋経済オンライン // 編 集英社

『やんばる学入門』

33番目の国立公園になった、沖縄島北部にひろがる「やんばる(山原)」とは? サワガニ類の多様性、鳥の化石、山仕事…。やんばるの生き物ウォッチング等のエピソードを織り交ぜて、自然-生き物-人々の暮らしを描き出す。

盛口 満 // 著 宮城 邦昌 // 著 木魂社

『知られざる縄文ライフ』

今までまったく知らなかった縄文人の暮らしを覗く本。縄文土器や土偶をはじめとする彼らの創造性、厳しい環境を生き抜く創意工夫、そして自然と共生する心を、彼らが残したモノからたどる。

譽田 亜紀子 // 著 誠文堂新光社

『ジャングルの極限レースを走った犬アーサー』

全長700キロものジャングルを踏破するレースの世界選手権。過酷なコースに苦しみ、リタイア寸前だったチームをゴールに導いたのは、1匹の犬だった…。アドベンチャーレースに挑む男と野良犬の運命的な出会いを描く。

ミカエル リンドノード // 著 早川書房

『国旗で知る国際情勢』

国旗に表現された様々な意味と願望を読み解き、現代社会に重ね合わせていくと、世界の骨組みが見えてくる。国旗に記された国民性や価値観、歴史と地政学的条件を紹介し、なぜ国旗に愛着を覚えるのかを明らかにする。

ティム マーシャル // 著 原書房

『王妃たちの最期の日々 上』

さまざまな国の有名な王妃(女王、皇后)20人を選び、その最期をかえりみることで、古代から20世紀にいたる君主制の歴史を女性の視点から描く。上は、クレオパトラからメアリ・ステュアート、マリア=テレジアまでを収録。

ジャン=クリストフ ビュイツソン // ほか編 原書房

『本の雑誌おじさん三人組が行く!』

本の雑誌社の「おじさん」社員たちが社会科見学! 大小個性派の出版社に潜入したり、文壇バーや文学フリマなどの知られざる実態をつかんだり…。出版業界に関連するあちらこちらを訪問した記録。『本の雑誌』掲載を単行本化。

本の雑誌編集部 // 編 本の雑誌社

*掲載しているものは新着本の一部です。新着本は随時ホームページで公開していますので、そちらもご覧下さい。
*紹介文はTRCマークより引用。*書影は日外アソシエーツブックデータASPサービスを利用。

